

<訂正>

P.4 D [^] を攻略し、
大公園

2012年度
世 界 史
(問 題)

〈H2406BY16〉

注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および記述解答用紙を開かないこと。
2. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. マーク解答用紙記入上の注意
 - (a) 印刷されている受験番号を確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (b) 解答用紙の解答欄は、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルでマークすること。
 - (c) 解答は指定された解答欄にマークし、その他の部分には何も書かないこと。
 - (d) マーク欄は、はっきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムでていねいに、消し残しがないようによく消すこと（砂消しゴムは使用しないこと）。

(例)

マークする時	☒ 良い	☐ 悪い	☐ 悪い
マークを消す時	☐ 良い	☐ 悪い	☒ 悪い

4. 記述解答用紙の所定の欄（2か所）に、氏名および受験票に記載されている受験番号を正確に記入すること。受験番号は、右詰めで記入し、番号欄に余白が生じる場合でも、番号の前に「0」を記入しないこと。

(例) 3825番 ⇒

万	千	百	十	一
	3	8	2	5

※数字は読みやすいように、はっきり記入すること。

読みにくい数字は採点処理に支障をきたすことがあるので、注意すること。

数 字 見 本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
---------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

5. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

I 次の文章を読み、問A～Lに答えよ。解答はマーク解答用紙の所定欄に一つだけマークせよ。

司馬遷は、^A『史記』において中国南北の特徴を、大略^B「楚越は地が広く人は稀で、民は米を主食にし、魚をスープ、果菜と魚介を副食としているので商人を必要としない。食物が多く飢える心配がないから怠惰となり、貯蓄もせず一様に貧しく大金持ちはいない。北方は五穀桑麻の栽培や家畜の飼養に適するが、地は狭く人が多いうえ、しばしば水害旱害があるので、民は貯蓄にはげみ、政府も農業を奨励する。^C商人が活動し、人々は富を求めるのに急であり、^D厳しい社会である」と述べる。こうした中国南北の状況は、魏晉南北朝時代に大きく変化する。それは^E華北の戦乱による大量の移住者の南下によって江南の開発が進んだことである。ただしそれは南朝の都^F建康など点在する都市を中心とした集住に過ぎず、湿地帯である江南デルタの本格的開発は唐以降に始まる。

北宋になると南北の人口比は逆転し、^H江南が^G農業生産の主要地帯となる。それは^I干拓による^J圃田の増加や裏作としての麦作の普及、施肥の改良などにみられる^K新農法の展開がもたらした生産力増大の結果でもあった。南宋が、^L金やモンゴル勢力と対抗しながら150年余り存続した最大の理由は、その経済力にあった。しかし明清時代に^K耕地の拡充と投下労働力の増大に頼る生産拡大は限界に達し、そのまま中国は近代をむかえることになる。

問A 下線部Aが編纂されたのはいつの時代か。

1. 明帝 2. 光武帝 3. 武帝 4. 景帝

問B 下線部Bの説明として誤っているものはどれか。

1. この地域に展開した長江文明では、新石器時代から稲作がおこなわれていた。
2. この地に建国した大越は、閩閩のときに楚を破り春秋五覇の一人に数えられた。
3. この地域を支配した楚は、春秋時代は覇者となり後に戦国の七雄に数えられた。
4. この地から出た項羽は、秦を滅ぼしたが垓下の戦いで劉邦に敗れ自害した。

問C 下線部Cの説明として正しいものはどれか。

1. 漢は、商人の活動を支援するために均輸法を制定した。
2. 漢は、商業税である算賦を商人から貨幣で納めさせた。
3. 漢は、商業流通を促進するために半両銭を鑄造した。
4. 漢は、平準法を定めたが商業統制策として反対された。

問D 原文では下線部Dの部分は具体的な事例が多くあげられている。それに含まれないものはどれか。

1. 焼畑で土地を肥やし、導水して除草する。
2. 農本主義や民本主義の主張が起こった。
3. 牛耕がおこなわれ養蚕も盛んである。
4. 智慧を絞り技巧をつくして利を追求する。

問E 下線部Eのなかで建てられた国はどれか。

1. 後周 2. 後趙 3. 後晋 4. 後梁

問F 下線部Fの説明として誤っているものはどれか。

1. 三国時代の呉の都である。
2. 現在の南京である。
3. 明が最初に都した地である。
4. 南宋の最初の都である。

問G 下線部Gの契機を説明するものとして正しいものはどれか。

1. 八王の乱によって滅びた西晋からの難民が、長江下流域の開発主体となった。
2. 安史の乱により華北が廃墟と化したため、江南を優遇する兩税法が成立した。
3. 王仙之の乱で全国が荒廃するなか、江南のみは反乱軍が至らず無事であった。
4. 黄巢の乱は唐の滅亡をもたらし、地方で自立した諸政権は富国強兵に努めた。

問H 下線部Hを表現する言葉はどれか。

1. 湖広熟天下足
2. 地大物博
3. 蘇湖熟天下足
4. 揚一益二

問I 下線部Iに関連した説明として誤っているものはどれか。

1. 湿地を堤防で囲み、内側を排水して田地とした。
2. 佃戸は、こうした手法で自営田を獲得して自立した。
3. 湖を陸地化したものをとくに湖田といった。
4. 形勢戸が占有地を拡大する一つの手段であった。

問J 下線部Jに関連する事項はどれか。

1. 占城米の栽培
2. 齊民要術の刊行
3. 乾地農法の導入
4. 農政全書の普及

問K 下線部Kの二国間の関係について正しい記述はどれか。

1. 金朝とモンゴル帝国は、騎馬遊牧民として共通の国家構造をもつ。
2. 最初のモンゴル文字は、女真文字をもとに作成された。
3. 金は、モンゴルの第2代ハンのオゴタイによって滅ぼされた。
4. 金とモンゴルは、一時期同盟して南宋を攻撃するが失敗した。

問L 下線部Lについて、この時代に開発された地域はどれか。

1. 南流黄河下流地域
2. 淮河下流地域
3. 珠江下流地域
4. 閩江下流地域

Ⅱ 次の文章を読み、問A～Lに答えよ。解答はマーク解答用紙の所定欄に一つだけマークせよ。

ヨーロッパから極東アジアにひろがる広大なロシアは、多様な周辺世界とかかわってきた歴史を有している。「ロシア」の語源といわれるルーシ（ルス）は第二次民族大移動と呼ばれる **A** の移動のなかで北方から現在のロシア北西部に進出してノヴゴロドを建てた。他方で7世紀に西突厥から独立したハザール（ハザル）はカスピ海北西部に建国した。ハザールをはじめ、ロシア方面に進出したトルコ系・モンゴル系の集団は通商を重んじており、いずれもモスクワ方面に通ずるヨーロッパ・ロシア最長の **C** 川のほとりに都を築いた。

15世紀に下ってモンゴルからの自立を果たしたロシアはイヴァン3世の時代に西方の **D** を攻略し、イヴァン4世の時代には南方の **E** を獲得した。17世紀に即位したピョートル1世の治下では北方戦争に勝利してバルト海の覇権を確立し、また清国との国境を定めた条約を締結した。18世紀にはフランス革命の混乱に乗じてポーランドを分割し、オスマン帝国から **I** を獲得した。19世紀初頭にはイランとのあいだでトルコマンチャイ条約を結んで **J** の大部分を割譲させ、19世紀中葉には列強と清のあいだの **K** を調停したみかえりに沿海州などの領土を手に入れた。

こうした多方面にわたる拡張の一方で、ロシアの社会構成は西欧に後れをとり、たびかさなる反乱や戦争に促された改革の試みも途中で挫折することがしばしばであった。

問A **A** に当てはまる語はどれか。

1. ゲルマン人 2. ノルマン人 3. スラブ人 4. ブルガール人

問B 下線部Bのハザール（ハザル）についての説明で正しいものはどれか。

1. トルコ系の遊牧国家。東ローマ皇帝とも姻戚関係があり、ユダヤ教を受け入れた。
2. バトゥが建国したハン国。イスラーム教を受け入れた。モスクワ大公国が独立すると崩壊した。
3. イラン系の王国。パルティアのあとにイラン高原に建国した。ゾロアスター教を国教に定めた。
4. 中央アジアの騎馬遊牧民。エフタルとも呼ばれ東トルキスタンに進出した。

問C **C** に当てはまる語はどれか。

1. ドン 2. ドニエプル 3. ヴォルガ 4. ドニエストル

問D **D** に当てはまる地域の宗教情勢について、正しい説明はどれか。

1. プロテスタントの騎士や都市住民が有力だった。
2. ローマ・カトリックを受け入れていた。
3. イスラーム教を国教に定めていた。
4. ギリシャ正教の流れをくむ一派が支配的だった。

問E **E** に当てはまる語はどれか。

1. イル＝ハン国 2. カザン＝ハン国 3. プハラ＝ハン国 4. クリム＝ハン国

問F 下線部Fの北方戦争について、正しい説明はどれか。

1. カール12世はロシアを相手に勝利を重ねたが、ポルタヴァの会戦で戦死した。
2. ピョートル1世はティルジット条約で講和を結び、バルト海の覇権を確立した。
3. デンマーク・ポーランドとロシアが連合してスウェーデンを中心とするカルマル同盟諸国と戦った。
4. 新首都ペテルブルク（サンクト＝ペテルブルク）の建設は北方戦争のさなかにはじまった。

問G 下線部Gの条約について、正しい説明はどれか。

1. アルグン川と外興安嶺をロシアと清の国境線として取り決めた。
2. 黒竜江を国境に定め、沿海州をロシアと清の共同管理地とした。
3. モンゴル方面の国境を画定し、ロシアと清のあいだの国境交易の枠組みを定めた。
4. ウスリー川以東をロシア領に編入した。

問H 下線部Hについて、ロシアとともにポーランドを3回目に分割した諸国の組み合わせとして正しいものはどれか。

1. プロイセンとリトアニア
2. オーストリアとフランス
3. プロイセンとオーストリア
4. イギリスとフランス

問I I に当てはまる語はどれか。

1. アゾフ海沿岸
2. カスピ海沿岸
3. クリミア半島
4. ボスフォラス海峡

問J J について、この地域の20世紀から最近にかけての状況を正しく説明している文はどれか。

1. ロシア革命期に一時独立を宣言したが、ソビエト連邦の一共和国とされた。ソ連崩壊期に隣国アゼルバイジャンとの民族紛争を経験した。
2. ソビエト連邦の一共和国であったが、2009年にロシア連邦との紛争を経て独立国家共同体を脱退した。
3. ソビエト連邦の自治州・自治共和国であり、現在は一部がロシア連邦内に編入されている。
4. ソビエト連邦の成立以前から独立国であったが、第二次大戦の頃に強制的にソ連に併合され、ソ連崩壊期に独立を回復した。

問K K に当てはまる語はどれか。

1. アロー戦争
2. イリ事件
3. 太平天国の乱
4. 義和団事件

問L 下線部Lに関して、以下の出来事のうち年代順で2番目のものはどれか。

1. プガチョーフの農民反乱
2. 十月勅令（十月宣言）の公布
3. 農奴解放令の公布
4. ストルイピンの暗殺

Ⅲ 次の文章を読み、問A～Lに答えよ。解答はマーク解答用紙の所定欄に一つだけマークせよ。

^A19世紀のイギリスは海外に次々と植民地を獲得していく。しかしそれは当然^Bフランス、^Cロシアなどの列強との衝突を生まざるを得ない。したがって19世紀英国の首相、外相にとって対外政策はそれまでもまして重要な意味を持つことになる。なかでも19世紀中葉のイギリス外交を担ったのがパーマストンである。かれは1830年に外相に就任以来30年あまり外相や首相として活躍した。まずかれはウィーン会議後^Dオランダの支配下にあった^Eベルギーの独立を支持し、1831年のロンドン会議でベルギーの独立と永世中立が列強により承認された。その後ベルギーは産業革命を実現させアフリカへの植民地獲得へと進むことになる。

パーマストンは、対中政策には強硬策を推し進めていった。その代表が^Fアヘン戦争である。国内には人道的な立場からアヘン輸出に批判的な声もあったものの、中国に遠征軍が派遣され、近代的な兵器に優る英国は平英団などの民衆による抵抗も圧倒し、清を降伏させ1842年、G 治下の清国政府と^H南京条約を締結させた。

一方、パーマストンは1855年^Iクリミア戦争の行き詰まりから辞任したアバディーン伯に代わって首相に就任すると1858年までの首相在任期間にクリミア戦争の有利な解決を図り、またインド大反乱を鎮圧した。1858年一度首相職を辞するも、翌年復職し統一を達成した^Jイタリア王国承認、アメリカ南北戦争における中立の維持などの政策を実施した。そしてパーマストンは首相在職中の1865年病死した。

パーマストンは「砲艦外交」とも評される強硬な対外政策を展開した。だがかれの死後イギリスの議会政治は徐々に変化を見せ、イギリスは^K保守党、^L自由党が政権交代を繰り返す古典的な二大政党政治の時代に入っていく。

問A 下線部Aに関して、19世紀後半のイギリスで起こった出来事はどれか。

1. カトリック教徒解放法が成立した。
2. 奴隷制度が廃止された。
3. 穀物法が廃止された。
4. ダーウィンが『種の起源』を出版した。

問B 下線部Bに関して、19世紀前半のフランスで起こった出来事はどれか。

1. ティエールが第三共和政の大統領となった。
2. オスマンがセーヌ県知事としてパリの全面的な改造事業を行った。
3. スタンダールが『赤と黒』を刊行した。
4. モーパッサンが『女の一生』を著した。

問C 下線部Cに関して、19世紀前半のロシアで起こった出来事はどれか。

1. デカブリスト（十二月党员）の乱が鎮圧された。
2. ドストエフスキーが『罪と罰』を著した。
3. 財政難のため、720万ドルでアラスカをアメリカ合衆国に売却した。
4. チャイコフスキーがバレエ音楽「白鳥の湖」を作曲した。

問D 下線部D、19世紀のオランダに関連する出来事で、内容が誤っているものはどれか。

1. オランダはジャワ島で強制栽培制度を始めた。
2. イギリス＝オランダ協定を結び、イギリスは東のマラッカ・シンガポールを、オランダは西のスマトラを勢力圏として相互に認めあった。
3. オランダの暴政に対し王族のディボネゴロらがスマトラ島で叛乱を起こした。
4. 後期印象派画家としてオランダ人ゴッホが活躍した。

問E 下線部E, 独立後のベルギーについて誤っているものはどれか。

1. 鉄, 石炭などの資源が豊富であり, 産業革命が発達した。
2. リヴィングストンがベルギー国王レオポルド2世の援助でコンゴを探検した。
3. 第二次世界大戦でドイツの侵略を受けた。
4. イギリス, フランス, ベネルクス3国がベルギーの首都ブリュッセルで西ヨーロッパ連合条約を締結した。

問F 下線部Fに関して, アヘン戦争後まもなく欧米諸列強と締結された条約には当たらないものはどれか。

1. 望厦条約
2. 虎門寨追加条約
3. 黄埔条約
4. 天津条約

問G G に関して当てはまる人名はどれか。

1. 咸豊帝
2. 光緒帝
3. 道光帝
4. 同治帝

問H 下線部Hに関して南京条約の内容に含まれないものはどれか。

1. 公行の廃止
2. キリスト教布教の自由
3. 香港割譲
4. 賠償金の支払い

問I 下線部I, クリミア戦争に関し, 正しいものを選びなさい。

1. 16世紀以来, ロシア皇帝はエルサレムの聖地管理権を保持していた。
2. オスマン帝国アブデュル＝メジト1世はイギリス, フランスの援助を得てロシアと戦い勝利した。
3. サルデーニャ王国はロシア側に立ち参戦した。
4. ロンドン講和条約でクリミア戦争の処理が行われた。

問J 下線部J, イタリア王国についての説明で年代順に3番目に当たるものはどれか。

1. イタリアはティラナ条約によってアルバニアを事実上の保護国とした。
2. サン＝ジェルマン条約により, 南チロルはイタリア領になった。
3. アドワの戦いでイタリアはエチオピアに完敗した。
4. イタリアはエリトリアをエチオピアから分離させ, 占領した。

問K 下線部K, 19世紀の保守党政権時代に起こったことではないものはどれか。

1. ディズレーリが首相として活躍した。
2. 1877年, ヴィクトリア女王をインド皇帝とするインド帝国が成立した。
3. 露土戦争後の1878年ベルリン会議に出席し, ロシアの南下を阻止した。
4. 19世紀末二度アイルランド自治法案を提出したが, いずれも否決された。

問L 下線部L, 19世紀の自由党の政策ではないものはどれか。

1. 1870年, 教育法制定により初等教育を行う公立学校が増設された。
2. 1875年, エジプトからスエズ運河株式(全体の44.4%)を買収した。
3. 1871年, 労働組合法の制定により労働組合に法的地位が与えられた。
4. 1884年, 第三回選挙法改正を実現させた。

Ⅳ 次の文章を読み、空欄 1 ～ 13 は、記述解答用紙の所定欄に適切な語句を記入せよ。下線部14は、その内容と歴史的意義について100字以内で説明せよ。なお、句読点・算用数字も1字と数える。

1989年11月9日、東西対立の象徴であったベルリンの壁が開放された。同年6月には中国で 1 が起き、8月にはバルト三国がソ連からの離脱を求めて決起した。壁開放と相前後して東欧諸国で民主化を求める運動が勝利し、米ソ両首脳は12月の 2 会談において冷戦の終結を宣言した。

第二次世界大戦末期の1945年2月、連合国側の勝利を確信した米英ソ首脳たちがクリミア半島のヤルタで一堂に会した。この会談は協調主義にいろどられていたが、国際連合の設立、ドイツの分割統治、ソ連の対日参戦と並ぶ主要な議題の一つであった 3 およびバルカン問題で英ソの対立が表面化し、東西二陣営が対立する冷戦の起点になった。

戦後、ソ連が社会主義圏を拡大すると、チャーチルはその閉鎖性を「鉄のカーテン」とたとえ、アメリカは1947年に 4 を掲げて対ソ封じ込め政策を開始した。マーシャル＝プランに対して、西欧諸国は 5 を結成してこれを受け入れたが、ソ連・東欧諸国は 6 を創設して対抗した。西側陣営が1949年に北大西洋条約機構を結成すると東西対立は激しさを増し、東側陣営は1955年にワルシャワ条約機構を結成した。

1962年に起きた 7 に核による破滅の深淵を見た米ソ両大国は、この後 8 に向けて動き始めたが、ベトナム戦争や中ソ対立など火種は絶えず存在した。1979年にソ連が 9 に軍事介入すると世界は新冷戦と呼ばれる新たな局面に突入し、レーガン大統領が「強いアメリカ」を主唱して軍拡を推進したことから国際緊張は一層高まった。

しかし、米ソともにこの軍事費負担は重く、とくに経済成長率の低かったソ連は、ゴルバチョフ政権の出現とともに積極的に軍縮交渉に乗り出さざるをえなかった。一方のアメリカもいわゆる「 10 」を抱えて経済的に弱体化していたため、両大国の利害は一致し、ヤルタ体制は大きな転換点に向かっていく。

1971年のドル＝ショックは世界経済を混乱させたが、80年代にアメリカが貿易赤字を拡大させ債務国に転じたことから、先進各国は協調して1985年にプラザ合意を結び 11 政策を進めた。しかし、アメリカの貿易赤字は解消されず、かえってアメリカ経済への不信感が広まった。他方、1986年に起きたチェルノブイリ原子力発電所の事故は、ゴルバチョフが打ち出した 12 とペレストロイカを後押しするところとなり、1988年の 13 宣言は東欧革命のきっかけになった。

ベルリンの壁開放とともにヤルタ体制は一応の終焉を迎えたが、朝鮮半島における南北対立や千島列島の帰属問題などにその残滓をとどめ、多極化した世界はヤルタ体制下に伏在していた多様な問題を噴出させた。

〔以下余白〕